

龍ヶ崎の **お宝の木**
巨樹・古木



(般若院：シダレザクラ)

龍ヶ崎市

龍ヶ崎の お宝の木 巨樹・古木の発刊にあたって

わがまち龍ヶ崎には、何世代にもわたって大切に守り育てられてきた名木が数多く残されています。

龍ヶ崎の巨樹・古木（お宝の木）を保護し、後世に伝えていきたいとの気持ちがありましたが、市民の皆さまに話を伺うと、ほとんどの人が巨樹や古木に関心を持っているにもかかわらず、その存在が知られていないのに驚きました。



このような文化遺産を多くの方に知っていただくため、行政提案型の市民協働事業を募集したところ、「お宝の木発掘委員会」より提案を受け、事業化がなされたものであります。

本冊子に掲載された一本一本のお宝の木は私たちに感動ややすらぎを与えてくれます。編集の都合もあり、紹介できなかった巨樹等もたくさんありますが、本書をデータベース化・電子化し、新たに発掘した巨樹等を追加紹介できればと考えております。

また、本冊子を参考にいただき、龍ヶ崎市の歴史、文化、自然などに触れながら散策を楽しんでいただければと願っています。

最後に発刊にあたって多大なるご協力を賜りました「お宝の木発掘委員会」の皆さまを始め、監修でお世話になりました渡辺先生や所有者の方々、関係各位の皆さまに心から感謝申し上げます。



龍ヶ崎市長 中山 一生

「お宝の木」

私たちは、「人が寄り添い」また「人に寄り添い」時の流れを超えて生き続けた木々を「文化遺産」と位置づけ、「お宝の木」と呼ぶことにしました。

「こんな木々を私たちは探しました」

■「大きな木」

全体から溢れ出る気を感じる巨樹は、それだけで神々しく、見る者に拠りどころを与えてくれます。数百年にわたって人間はその時に応じ、養生をし、木々を育て、木々に育てられてきました。

■「珍しい木」

なぜここにこの木が育っているのだろうと感じさせる木。（誰かが何処かから持ってきて育て、この異郷の地でここまで大きく生育した木。これからも永遠に育ってほしいと願わずにいられません。）

■「いわれのある木」

巨樹でなくても、珍しくなくてもいい。「なつかしく楽しい思い出」、「哀しい思い出」、「大昔から伝わる話などいわれやエピソードがある」

そんな木は人々に親しみを与え、温もりが感じられます。

「お宝の木・選考にあたって」

冊子の掲載にあたり、市内の巨樹・古木など約80本を候補として選びました。その中から、樹高・幹周り・推定樹齢・いわれなどから独自に採点を行い、その上で評価の高かった樹木を紹介しました。残念ながら今回掲載できなかった樹木も今後、ホームページ等で追加紹介していければと考えています。

「保護・育成で永遠の絆を」

「お宝の木」を探すに当たり、約8年の年月を要しましたが、その間にも残念なことに何本かの木々が伐採されてしまいました。人間の営みには無抵抗な「お宝の木」を保護・育成していかなければなりません。

私たちは、木々と人間の永遠の絆を守ることを目指し、更なる活動をしていきます。

お宝の木発掘委員会

目 次

■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ全体図	1
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ1 【龍ヶ崎地区】	2
□愛宕神社 (根町) スダジイ	3
□愛宕神社 (根町) モミ・アカガシ	4
□御嶽神社 (古城) トチノキ	5
□大統寺 (横町) ナギ	6
□八坂神社 (上町) ケヤキ	7
□上町民家 (上町) カンザンチク	8
□龍ヶ崎第二高等学校 (城下) ヒマラヤスギ	9
□般若院 (根町) シダレザクラ	10
□般若院 (根町) ケヤキ・ナギ	11
□田町民家 (田町) ケヤキ	12
□根町民家 (根町) ニッケイ・スダジイ	13
□龍ヶ崎第一高等学校 (平畑) ケヤキ	14
□流通経済大学 (平畑) アカマツ	15
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ2 【大宮地区】	16
□鹿島神社 (大徳町) カヤ・ケヤキ	17
□五十瀬神社 (大徳町) イチョウ	18
□佐沼町民家 (佐沼町) クスノキ	19
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ3 【長戸・八原・龍ヶ岡地区】	20
□西光寺 (塗戸町) スダジイ	21
□大塚町民家 (大塚町) カンザンチク	22
□大塚町民地 (大塚町) ケヤキ	23
□真福寺 (大塚町) イチョウ	24
□泉町民家 (泉町) クワ	25
□浅間神社 (八代町) スダジイ	26
□浅間神社 (八代町) ヒイラギ	27
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ4 【馴柴・北竜台地区】	28
□星宮神社 (若柴町) ヤマザクラ	29
□金龍寺 (若柴町) ムクノキ	30
□金龍寺 (若柴町) イチョウ	31
□御手洗の池 (若柴町) ケヤキ	32
□鬮(くじ)神社 (若柴町) ケヤキ・スダジイ	33
□若柴町民家 (若柴町) ツバキ(紅唐子)	34
□ねがらの道 (若柴町) ヤブツバキ	35
□小貝川沿い民地 (馴柴町) クスノキ	36
□女化神社 (馴馬町) スダジイ	37
□愛国学園大学付属龍ヶ崎高等学校 (若柴町) ソメイヨシノ	38
□鹿嶋神社 (南中島町) アカガシ	39
□日枝神社 (馴馬町) スギ	40
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ5 【川原代地区】	41
□天理教相馬分教会 (道仙田) ヒヨクヒバ・イヌマキ	42
□天理教相馬分教会 (道仙田) ヒバ・ヤマモミジ	43
□八幡神社 (川原代町) イチョウ	44
■龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ6 【北文間地区】	45
□須藤掘町民家 (須藤掘町) スダジイ	46
□長沖町民家 (長沖町) ケヤキ	47
□須藤掘町民家 (須藤掘町) クスノキ・オオムラサキ	48
□高須町民家 (高須町) カキ	49

龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 1

【龍ヶ崎地区】



- | | | |
|----------|-------------|----------|
| ① スダジイ | ② モミ・アカガシ | ③ トチノキ |
| ④ ナギ | ⑤ ケヤキ | ⑥ カンザンチク |
| ⑦ ヒマラヤスギ | ⑧ シダレザクラ | ⑨ ケヤキ・ナギ |
| ⑩ ケヤキ | ⑪ ニッケイ・スダジイ | ⑫ ケヤキ |
| ⑬ アカマツ | | |

スタジイ

【ブナ科シイ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】①

樹高/ 15m 幹周り/ 420cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 愛宕神社(根町)



■愛宕神社の大すだ椎(しい)■

愛宕神社は、龍ヶ崎市立愛宕中学校に隣接した小高い丘陵地にあります。寛永18年(1641年)、仙台藩二代藩主・伊達忠宗公が領地を一望できるこの地に領民の安泰と火災、災難除けを祈願して建立されました。

社殿は表6尺、奥6尺5寸の総檜造りで四面に優れた彫刻が施されており、特に正面の鷹の彫刻は逸品です。今日でも「火伏の神」信仰が地元の人々に受け継がれ、年2回の大祭が行われます。特に1月24日の大祭は盛大です。

愛宕神社本殿の奥にご神木の巨木スタジイが鎮座しています。その樹冠は境内一面の深緑をまるで一本で覆うかのように壮大です。喧噪から離れたのんびりと散策を楽しむには最適地です。

スタジイは常緑高木の広葉樹です。別名はイタジイやナガジイなどですが、シイという場合にはスタジイを指します。暖地に多く、鬱蒼とした巨木になり、材は建築・器具に、樹皮は漁網、釣り具用の染料用いられています。



モミ・アカガシ

【マツ科モミ属】【ブナ科コナラ属】

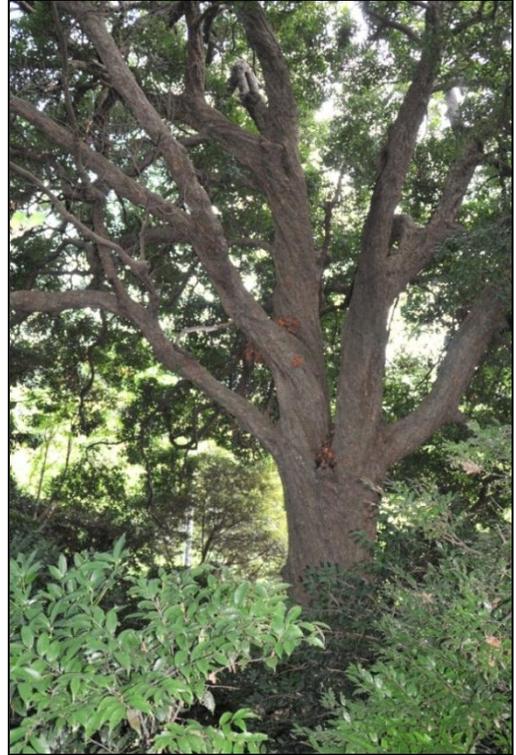
データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】②

(モミ) 樹高/ 30m 幹周り/ 310cm
 推定樹齢/ 300年
 (アカガシ) 樹高/ 30m 幹周り/ 370cm
 推定樹齢/ 400年
 場所/ 愛宕神社(根町)



【モミ】



【アカガシ】

■愛宕神社の木々たち■

モミ

モミの巨木は社殿に向かう参道右側にあり、天に向かって高くそびえ、その姿に圧倒されます。常緑針葉樹で北端は秋田県、南端は鹿児島県（屋久島）と広範囲に分布します。

材は色が白く美しく天井板、家具、樽、製紙パルプなどに用いています。

アカガシ

社殿奥の斜面に巨木のアカガシがあります。アカガシの名は、材が淡紅褐色で赤みが強いことからついたものです。材は床材や柱、器具材に利用され、また、秋には2年かかって熟したドングリが沢山落ちています。

桜花と眼下の家並みや遠山にたなびく春霞の景色は一幅の名画といえますが、時空を超えての歴史の散歩が楽しめます。

北方の外縁にはうっそうとした斜面林がおおい、スタジイの近くのアジサイの群生が心を和ませます。

トチノキ

【ムクロジ科トチノキ属】

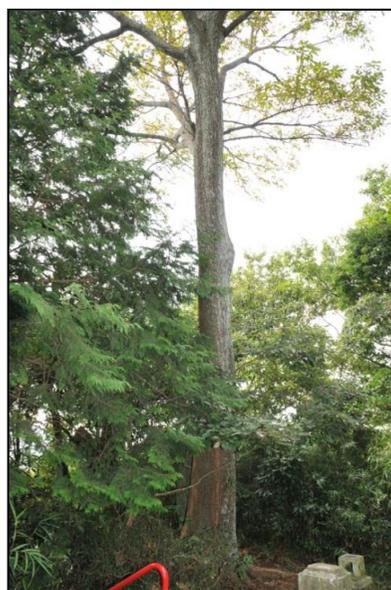
データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】③

樹高/ 20m 幹周り/ 210cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 御嶽神社(古城)



■御嶽神社の橡（とち）の木■

戦国時代、県南を代表する領主として名をはせた土岐氏の龍ヶ崎城跡に御嶽神社があります。かつて御嶽神社は龍ヶ崎第二高等学校と地続きの丘陵でしたが、宅地化により、現在は孤立した状態となっています。その神社の石段を登り切った左手に大きくそびえるトチノキがあります。

トチノキは北海道西南部から九州に分布する落葉樹木で、冷温帯域の山地に生育します。葉は大きく5～7つの掌状に分かれており、さながら「天狗の団扇」と呼びたくなります。5～6月に大形の房状花序を付け、白い花を咲かせます。

近年、都会でも街路樹として植栽されることも多くなりました。ヨーロッパのマロニエと同じ仲間です。かつてトチノキの種子は米が少ない山間部では貴重な食糧でしたが、今では土産品（とち餅）のひとつとして扱われています。

ナギ

【マキ科マキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】④

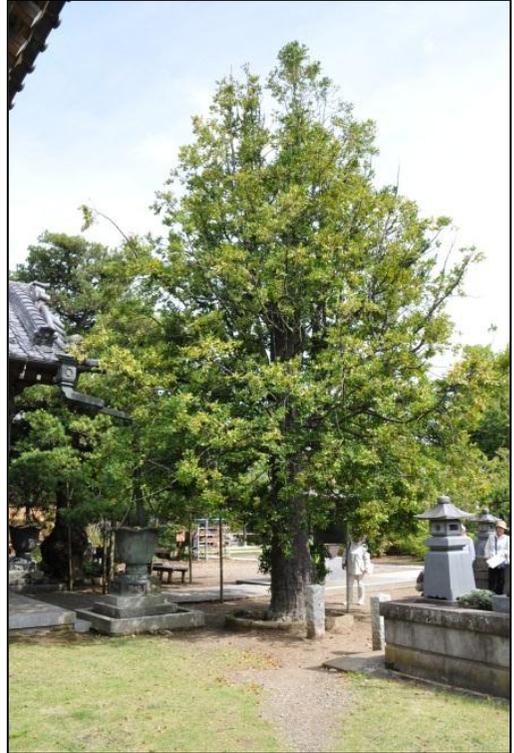
樹高/ 13m 幹周り/ 185cm

推定樹齢/ 100年

■昭和56年3月30日天然記念物

龍ヶ崎市指定文化財に指定

場所/ 大統寺(横町)



■大統寺の竹柏（なぎ）■

マキ科の常緑高木。暖かい地方に自生するものもありますが、神社の境内などによく植えられ、奈良県の春日大社境内の純林はよく知られています。

樹皮は紫褐色で枝が多く茂り、八丈島、紀伊半島、九州、四国西部、沖縄などの暖かい山中に分布しています。ナギは風に通じることから、海上安泰、晴天のまじないにするなど、縁起かつぎとして昔から使われました。

曹洞宗大統寺は、天正13年(1585年)龍ヶ崎城主・土岐胤倫の創建、根町台の大運寺、さらに大聖院・大真院の二つを合併し、大統寺としました。本堂の裏手には土岐氏の墓があります。



ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑤

樹高/ 30m 幹周り/ 450cm
 推定樹齢/ 400年
 ■昭和56年3月30日天然記念物
 龍ヶ崎市指定文化財に指定
 場所/ 八坂神社(上町)



■上町、八坂神社の霊木、大榲 (おおけやき) ■

上町、八坂神社本殿奥にケヤキがあります。この巨樹は天正5年(1577年)、現在地に遷宮したときに、植樹された霊木といわれ、ほの暗い境内に、神々しさを放ち、深閑とした空間を醸し出しています。

このご神木は木肌ははがれ、根が隆起するなどケヤキの特徴が良く出ています。

現在の中心市街地の町並みは、この遷宮の頃に整備されたと推測されます。遙かな時代からこの町と共に歩み、変り行く町を見守ってきたケヤキは、ますます風格が漂い、微塵も衰えを見せません。

真夏の風物詩、八坂祇園祭は今も盛大に行われています。故郷を想うとき、人はどんな原風景を抱くのでしょうか。様々な夏の色に縁取られた祝祭に郷愁を感じる方もいるのではないのでしょうか。日本各地で繰り広げられる郷土色豊かな祭りの楽しさは格別です



カンザンチク

【イネ科メダケ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑥

■昭和 55 年 3 月 18 日天然記念物
龍ヶ崎市指定文化財に指定
場所/ 上町民家(上町)



■俳人、杉野翠兄の寒山竹（かんざんちく）■

江戸時代の中期の豪商、杉野翠兄宅の筑波庵跡には当地で珍しいカンザンチクがあります。また、庭内には翠兄建立の灯籠を兼ねた服部嵐雪（焦門十哲の一人）の句碑もあります。翠兄は俳人小林一茶との交流でも知られていますが、当時、常陸・下総・下野と広範囲に俳諧を広め、多くの門弟を育てたことは、今日でも高く評価されています。

カンザンチクは、稈が直立し、高さ3~5m、直径1.5~4cm、新緑色で上部の各節から3~5条の枝を出し、さらに分岐して密生します。枝や葉が上を向いているため、全体がそびえ立っている様は特異です。葉が細長く稈が枯れても葉が脱落しないので、小枝を束ねて手箒などに利用されていました。また、葉が立性で稈が密生し、葉がよく茂るので庭園樹林や防風林として活用されました。しかし、関東地方以西で大正時代の初め全国的に開花、枯死したため、今日では非常に少なくなりつつあります。

ヒマラヤスギ

【マツ科ヒマラヤスギ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑦

樹高/ 20m 幹周り/ 320cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 竜ヶ崎第二高等学校(城下)



■天に伸びゆく竜二高のヒマラヤ杉(すぎ)■

富士見坂を登り正門を抜けると、メキシコのサボテンのような樹形の木々が視界に入ります。この巨木がなぜこの学び舎にあるのか。かつての「学年通信」には、ひとりの教師がこの木を主題に生徒への思いを託し「頂きだけがのびようとしてもそれだけではヒマラヤスギにはなれない、どの枝も互いに引っ張り合って勢いよく天に向かって伸びていく」と記されています。

峻険なヒマラヤの峰々に逞しく育つ巨木のように、どの枝も天に向かってのびている姿と若葉が出ると古い葉の房のようになり、入替ることが生徒達の成長に重なります。

文豪シェークスピアはイギリス人の心の故郷コッツウォルズ丘陵のヒマラヤスギの下で「真夏の夜の夢」を執筆し、初演したとのエピソードもあります。

ヒマラヤスギはマツ科の常緑高木で、高さ50m、直径3mにも達します。枝は水平に張り、樹形は円錐形。日本には明治初めに渡来し、庭園樹、観賞用、建築土木材として利用され、世界三大美樹(三大公園樹木)の一つです。

シダレザクラ

【バラ科サクラ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑧

樹高/ 10m 幹周り/ 500cm

推定樹齢/ 450年

■昭和28年7月9日 天然記念物

茨城県指定文化財に指定

場所/ 般若院(根町)



■天然記念物 県指定文化財 般若院の枝垂れ桜(しだれざくら)■

天台宗般若院は天元元年(978年)道珍法師によって貝原塚町に開基され、その後大永4年(1525年)現在地根町に移ったそうです。

当院は古刹として知られていますが、本堂裏手にあるシダレザクラは市の名木として古くから親しまれてきました。

シダレザクラはエドヒガン(江戸彼岸)の園芸品種で枝垂れ性をもっており、名前のとおり彼岸頃に開花し、花が多く咲く特性から多くの品種の母種として使われます。ソメイヨシノもその一つとして知られています。

当院のシダレザクラは推定樹齢450年といわれており、シダレザクラの巨樹として県指定を受けました。開花時は美観を呈し、毎年心待ちにしていた大勢の花見客でにぎわいをみせています。



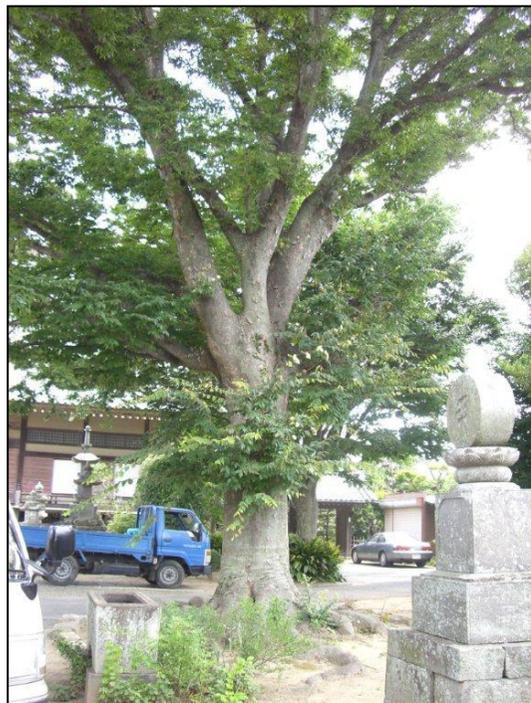
ケヤキ・ナギ

【ニレ科ケヤキ属】 【マキ科マキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑨

(ケヤキ) 樹高/ 20m 幹周り/ 300cm
 推定樹齢/ 200年
 (ナギ) 樹高/ 15m 幹周り/ 95cm
 推定樹齢/ 100年
 場所/ 般若院(根町)



【ケヤキ】



【ナギ】

■般若院の榲(けやき)■

ケヤキ

般若院本堂前におおいかぶさる様に二本のケヤキがあります。日本の代表的な広葉樹で、古くから庭木や街路樹として植えられています。特に関東地方では「ケヤキ並木」と称されるところが多く、新緑、秋の紅葉と私たちを楽しませてくれます。

材質は堅く、木目が美しい事から「異(け)やけき木」(けやけし=他のものより目立っている)～「けやけき」～「けやき」と変化したといわれています。建築材としても良材で、家具材、細工物として利用されています。

ナギ

本堂左手にナギがあります。龍ヶ崎市の天然記念物になっている大統寺のものよりも樹齢は若く、二本の寄せ植えになっています。

ナギは熊野権現のご神木でその葉は笠などにかざすことで魔除けとなり、帰りの道中を守護すると信じられていました。ナギはマキ科に属する針葉樹でありながら広葉樹のような幅の広い葉をもつ樹木です。その葉は、縦に細い平行脈が多数あって主脈がないため、縦は簡単に裂くことができますが、横にちぎることは難しいことから、その丈夫さにあやかり、男女の縁が切れないよう女性が葉を鏡の裏に入れる習わしがあったようです。

ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑩

樹高/ 15m 幹周り/ 520cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 田町民家(田町)



■威風堂々、田町の大榲（おおけやき）■

庭の一隅にその巨樹はありました。朽ちたところもありますが、樹勢は十分にあり、まるで仁王立ちする巨獣そのものです。

しかし、目を凝らしてみるとユーモラスでどこか高祖父のような堂々たる存在感にあふれています。推定樹齢400年の巨樹の根元には祠が祭られ、代々ご家族の歩みとともに生きてきた証を今に伝えています。

大きな古時計が永遠の時を刻むかのように、この巨樹もまた、家族に見守られながらおだやかに歳月を重ねていくことでしょう。

ケヤキは、本州・四国・九州に産し、肥沃、向陽の深層壤土質を好み、関東ローム層などは最適地で、江戸時代徳川幕府が橋や船を造るため、盛んに植えさせたといわれています。



ニッケイ・スタジイ

【クスノキ科クスノキ属】【ブナ科シイ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】①

(ニッケイ) 樹高/ 20m 幹周り/ 220cm
 推定樹齢/ 150年
 (スタジイ) 樹高/ 25m 幹周り/ 400cm
 推定樹齢/ 150年
 場所/ 根町民家(根町)



【ニッケイ】



【スタジイ】

■昭和の香り、肉桂（にっけい）とすだ椎（しい）の巨木■

根町 撞舞通りの中ほどの個人宅庭でニッケイの名木と出会いました。俗に「ニッキ」という言葉の響きに郷愁を感じる人も多いでしょう。木の根っこをしゃぶると甘く辛い独特の香りが広がり、なぜかやめられなくなったこと、そんな子どもの頃の思い出とともに昭和のノスタルジックな香りが蘇ります。享保年間（1716～1735年）頃、中国から移入され、これが広まり日本の暖地でも栽培されました。

安政元年（1854年）、家の蔵が建てられた頃には既に植えられていたと思われ、当家の屋敷林として激動の歳月を見守ってきました。

樹皮には芳香と辛味があり、乾燥したものは古来より香辛料・胃健薬として珍重され、漢方薬として葛根湯、桂皮湯などに調合され、急性熱病、感冒、消化器、循環器、老人病などの薬になっています。

また、邸宅内にはねじれたスタジイがあります。見事な巨木で当家の歴史の重さを感じます。このスタジイには以前フクロウが住んでいたそうです。

その他に、立派なタブノキが2本あります。タブノキは海岸性の植物です。



ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑫

樹高/ 25m 幹周り/ 350cm

推定樹齢/ 150年

場所/ 龍ヶ崎第一高等学校(平畑)



■未来へ躍動、竜一高の大樺（おおけやき）■

龍ヶ崎一校は、かつて、鎌倉時代・常陸南部の地頭職にあった下河辺政義氏の末裔・龍ヶ崎氏の居城のあったといわれる台地にあります。当校は明治33年(1900年)創立の伝統校で、校訓「誠実・剛健・高潔・協和」のもと、文武両道・文武両道を実践し、卒業生は多方面で活躍し、多くの実績を残しています。

校歌・第5節は「石段登る六十余 一足ごとに踏みかため～」と唄われていますが、石段を登り、正門を通り抜けてグラウンドに向かう右側に3本の巨木が生徒達を見守るようにそびえています。その雄々しき姿は、未来への発展と躍動を感じさせます。

ケヤキは東アジアの一部と日本(本州・四国・九州)に分布し、高さ25~30mになるため、巨木が国や市区町村のシンボル「県の木」「市の木」として指定しているところが多数あります。木目が美しく磨くと光沢を生じ、摩耗に強いので家具・建具等、そして、神社仏閣・建築用材として古来より多用されてきました。

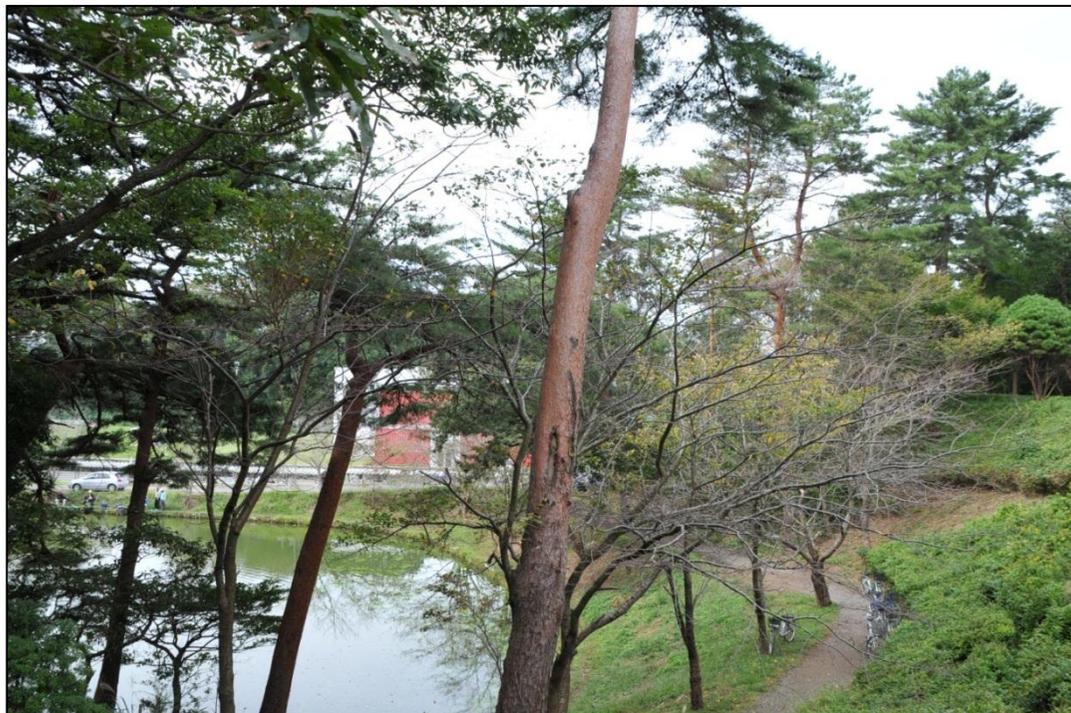


アカマツ

【マツ科マツ属】

データ

探訪マップ【龍ヶ崎地区】⑬

■アカマツ樹林
場所/ 流通経済大学(平畑)

■流通経済大学の赤松樹林（あかまつじゅりん）■

昭和40年（1965年）、この地に日本通運株式会社を中核に産業界の広範な支援のもと、流通経済大学が開学しました。開学当初は経済学の単科大学でしたが、現在では5学部8学科と大学院4研究科を擁する中規模総合大学となりました。スポーツ面での活動も盛んで、オリンピックやプロの選手も数多く輩出しています。

平成16年には「龍ヶ崎市と流通経済大学との提携に関する協定書（龍・流協定）」が締結され、毎年、市民大学講座や各種イベントなどが展開されています。

大学の南側にある露月池に面した明るい斜面に沿うように、約200本のアカマツ樹林があります。かつてこの場所には、市立龍ヶ崎中学校があり、校歌の冒頭に「松薫る奈戸岡に、北に遥かな筑波峯の～」と唄われ、多くの生徒を送り出しました。

今では、大学生たちはもとより、池で釣りを楽しむ太公望や、散歩に訪れる市民の憩いの場となっています。



龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ2

【大宮地区】



⑭カヤ・ケヤキ

⑮イチョウ

⑯クスノキ

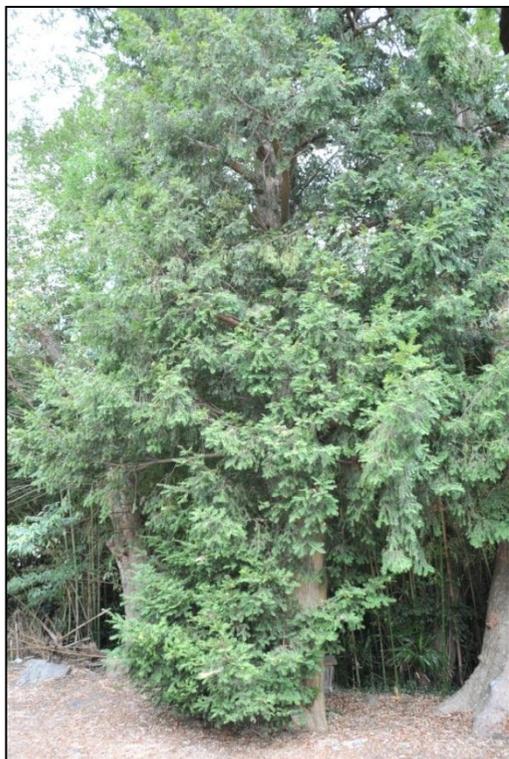
カヤ・ケヤキ

【イチイ科カヤ属】【ニレ科ケヤキ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【大宮地区】⑭

(カヤ) 樹高/ 25m 幹周り/ 220cm
推定樹齢/ 100年
(ケヤキ) 樹高/ 30m 幹周り/ 390cm
推定樹齢/ 100年
場所/ 鹿島神社(大徳町)



【カヤ】



【ケヤキ】

■ 艶めかしい大徳町、鹿島神社の大樫（おおけやき） ■

関東鉄道龍ヶ崎駅から2kmほど商店街をぬけ、大徳町から県道河内竜ヶ崎線（121号）を500mほど行くとコミュニティバスの停留所「宮前」があり、停留所の目の前が鹿島神社です。

ケヤキ

本殿の右奥にすっと伸びたカヤと小さな祠をはさんで、ドキッとさせるほどの艶めかしい姿態を思わせるケヤキの大木があります。

カヤ

カヤの木材は、水分や多湿に耐えるので、建築材、碁盤などに用いられ、種子は良質の油がとれます。また、間伐材や枝は燻して蚊を追い払うために使われ、「蚊遣」に由来するという説があります。葉の先端は鋭く尖り、鹿島神社のカヤを見たときに、子供の頃、手のひらや指に刺したりして遊んだことを思い出しました。



イチヨウ

【イチヨウ科イチヨウ属】

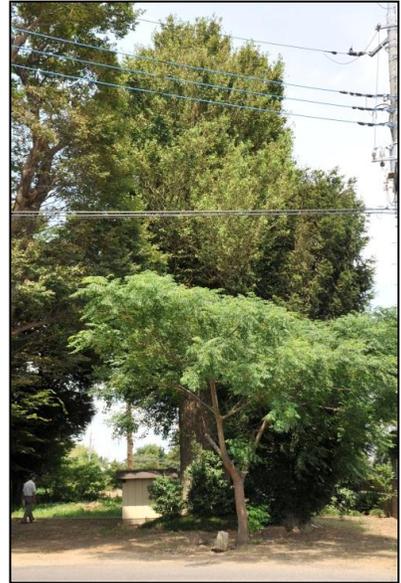
データ

探訪マップ【大宮地区】⑮

樹高 / 20m 幹周り / 390cm

推定樹齢 / 350年

場所 / 五十瀬神社(大徳町)



■五十瀬（いそせ）神社、対の銀杏（いちよう）■

県道河内竜ヶ崎線（121号）を少し南東に進み、大宮小学校の案内板に従い集落の狭い道を右に入り、江川の橋を越えてすぐ左に曲がると、こんもりとした鎮守の森の中に五十瀬神社があります。北側に江川の水路が見える境内の木々の間には祠やいくつかの石碑があり、入口の鳥居の付近に一对になったイチヨウがそびえ立っています。

五十瀬神社の縁起はわかりませんが、牛久市下根に同じ名前の神社があり、昔、この下根一帯を酒島といい、この神社の井戸から酒が湧き出たという話が伝わっているそうです。

下根の神社の裏手にある石碑には、「酒島村霊泉之碑」とあり大正12年（1923年）の建立となっているようですが、何か関係があるかもしれません。また、河内町源清田にも鎮座しており、祭神は天照大神で東北地方に多く祀られているようです。

クスノキ

【クスノキ科クスノキ属】

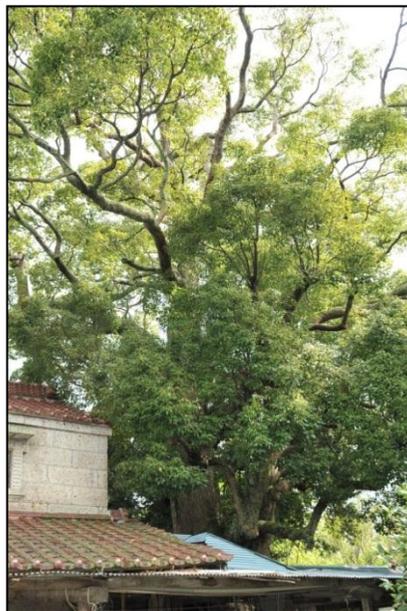
データ

探訪マップ【大宮地区】⑯

樹高/ 30m 幹周り/ 600cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 佐沼町民家(佐沼町)



■佐沼の巨大樟（きよだいくすのき）■

大宮小学校に程近い佐沼町は、不動尊や大杉神社がある集落となっています。その集落の中に大きな大谷石の蔵のある民家があります。

その蔵の横にクスノキが天空を覆うように伸びています。このクスノキは市内では幹周りがトップクラスの大きさで、作業場の屋根を突き抜けており、その存在感はただものではありません。

クスノキは常緑高木で関東以南に多く、材はかたく建材や船材として使われ、また、幹や根は樟脳の原料になることが知られています。

このように民家にクスノキの巨樹があることはめずらしいです。

龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 3

【長戸・八原・龍ヶ岡地区】



- | | | |
|--------|----------|----------|
| ① スダジイ | ⑱ カンザンチク | ⑲ ケヤキ |
| ② イチョウ | ⑳ クワ | ㉒ スダジイの森 |
| ③ ヒイラギ | | |

スタジイ

【ブナ科シイ属】

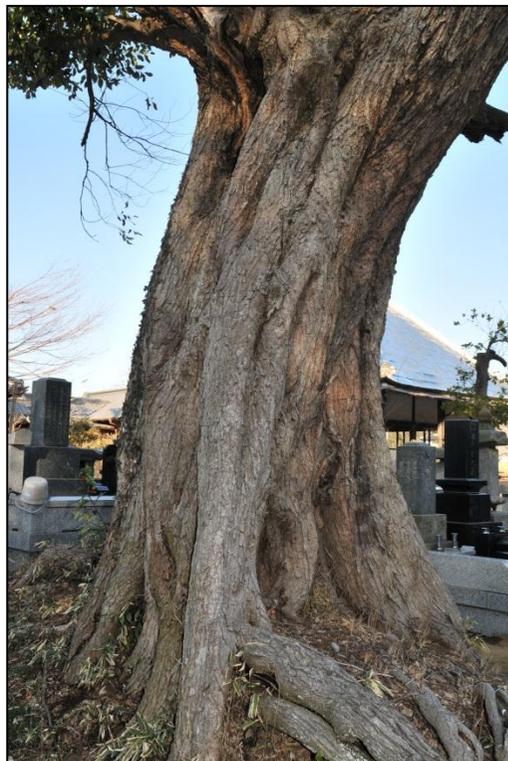
デ
ー
タ

探訪マップ【長戸地区】⑰

樹高/ 15m 幹周り/ 450cm

推定樹齢/ 350年

場所/ 西光寺(塗戸町)



■フクロウの棲んだ

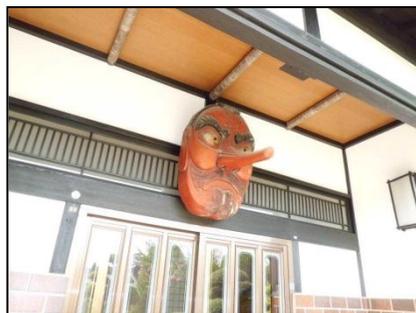
西光寺の椎(しい)■

龍ヶ崎潮来線(主要地方道5号)の半田交差点を左に曲がり、すぐ旧道を右に行った先の左手に里山があります。その里山の鬱蒼とした森の中に西光寺があります。

西光寺はもともと山岳宗教で、570年から580年前に建てられおり、スタジイは防火樹、防風樹として利用されたことから、寺に植えることが広がったといわれています。

西光寺のスタジイの木は2本とも上の枝が伐採されていますが、伐採前はフクロウが棲んでいたそうです。

また、西光寺の庫裏の玄関には大きな天狗のお面が飾られ、皆を迎えています。



カンザンチク

【イネ科メダケ属】

データ

探訪マップ【長戸地区】⑩

■昭和 55 年 3 月 18 日天然記念物
龍ヶ崎市指定文化財に指定
場所 / 大塚町民家(大塚町)



■大塚の寒山竹（かんざんちく）■

里山の中にある大塚地区は閑静な森の中の集落で、このほかにも多くの巨樹、古木があります。

小野川沿いの台地にある民家のカンザンチクは、15m 程道路に沿って密生して連なり、落ち着いた路地の雰囲気醸し出しています。また、その先を約 100m 歩くとケヤキの巨樹を見ることができます。



ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

データ

探訪マップ【長戸地区】⑱

樹高/ 20m 幹周り/ 370cm

推定樹齢/ 350年

場所/ 大塚町民地(大塚町)



■大塚の櫟（けやき）三兄弟■

ケヤキの巨樹が大地を蹴り、天に向かって雄々しく並び立つ姿は壮観です。孤樹が放つ孤高の風格、威厳というものよりは、どこか、大らかさと温もりの漂う樹々です。独特の根連なりは、350年余り(推定樹齢)の歳月を「兄弟」仲良く寄り添い、力を合わせたたくましく生き抜いてきたいのちの輝き、絆の力強さを感じます。

ケヤキは日本の代表的な広葉樹で、木目も美しく、材質に狂いがなく湿気にもよく耐え保存性が高いので用途が広く建築材、彫刻材、庭木などに用いられます。人との関わる歴史は古く、シンボルの木として県や市町村が指定する例も多く、著名なケヤキ並木、ケヤキ坂、ケヤキ通りなど街路樹として文化的景観保全の役割を果たしています。



イチヨウ

【イチヨウ科イチヨウ属】

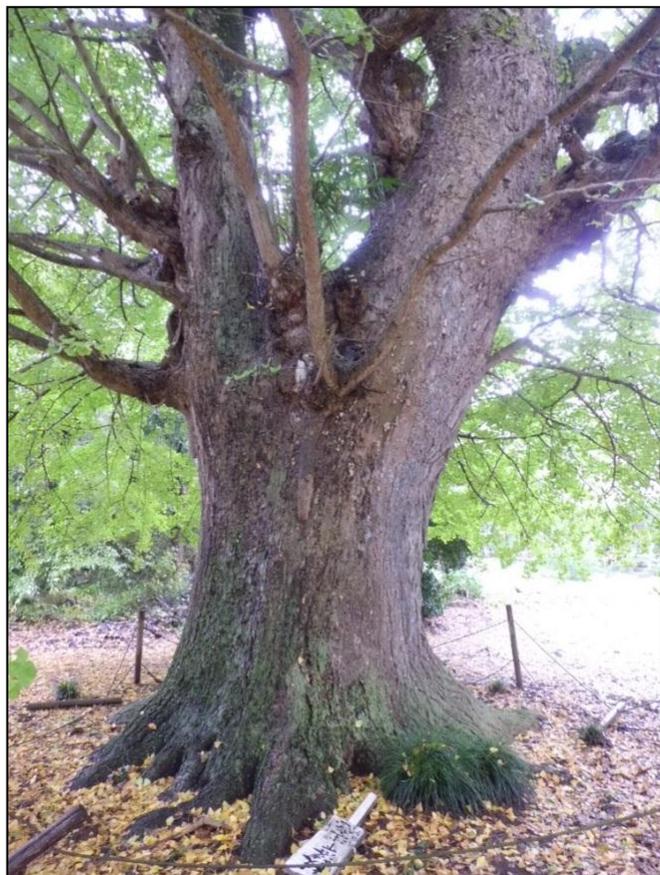
データ

探訪マップ【長戸地区】⑳

樹高/ 35m 幹周り/ 510cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 真福寺(大塚町)



■大塚、真福寺の大銀杏（おおいちょう）■

真福寺の門を入り、左手に、見る人を包み込んでくれるような、威厳のあるイチヨウの巨樹が目飛び込んできます。まさに近隣自慢の巨樹です。

また真福寺には、火伏地蔵尊、通称「大塚の愛宕様」と呼ばれるお地蔵様が祀られています。晩秋には、御堂の屋根も境内もすべてが金色の落葉で輝きます。

イチヨウの木は放置しても樹姿が整っていて、また、火事が起こっても類焼を防ぐ防火壁となるような防火性があります。

伝承では、祭りの日に酒盛りをしていた家が火事になってしまい、酒を飲まなかった家が助かったという伝説があり、いまでも地元の人々は毎月24日はお酒を飲まないそうです。

この巨樹のすくくと伸びた荘厳なたたずまいは、大塚の地を守っているようです。



クワ

【クワ科クワ属】

データ

探訪マップ【八原地区】②

樹高/ 15m 幹周り/ 380cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 泉町民家(泉町)



■開拓とともに、野風の大桑（おおくわ）■

野風（のおろし）の大クワは日本一の「薄根の大クワ」には劣るも樹容は重厚です。かつて米と並び農業の二本柱であった養蚕は、日本の近代化産業の礎を築いた紡績業を支えてきました。近くには終戦から復興期にこの地で農耕に生きる決意を固めた人々の名を刻んだ「開拓記念碑」があります。

碑文には荒野開拓の苦闘の年月がにじんでおり、県西の鬼怒川沿いを舞台に土に生まれ、土と闘う農民の姿を精緻に描いた長塚節の小説「土」の世界とも重なります。

人間生存の根源としての「農」、「土」そして「生命」。その結びつきを失いつつある今、改めて歴史に学び、泰然とした大クワのように大地を踏みしめ歩きたいものです。

クワの葉は蚕の重要な飼料で、果実は甘味があり、生色、桑実酒の材料になります。樹皮は布、ロープ、和紙に利用されます。



スタジイの森

【ブナ科シイ属】

データ

探訪マップ【八原地区】②
 ■平成 17 年 6 月 9 日 県指定
 「八代富士浅間緑地環境保全地域」
 場所/ 浅間神社(八代町)



■八代、浅間様（せんげんさま）の森■

浅間様境内のミニ富士山はこんもりとした森となっており、平成 17 年県指定の「八代富士浅間緑地環境保全地域」になりました。

その森はスタジイが多く幼木も見られ、アカガシ、ヤマザクラ、シラカシ、モチノキ、カクレミノ、スギ、ツバキなどが生育しています。特筆すべき樹木として、カゴノキ（鹿子の木）があります。樹皮が白色で鹿の子模様に目立つのが特徴です。

富士浅間神社は鎌倉時代、正治 2 年（1200 年）の創建で、木花開耶姫をご神体とし「子育ての神様」といわれています。すり鉢状の頂上には祠が鎮座し、旧暦 6 月 11 日の「初山詣り」には子供の成長を祈るため、多くの親子で賑わいます。



【カゴノキ】



ヒイラギ

【モクセイ科モクセイ属】

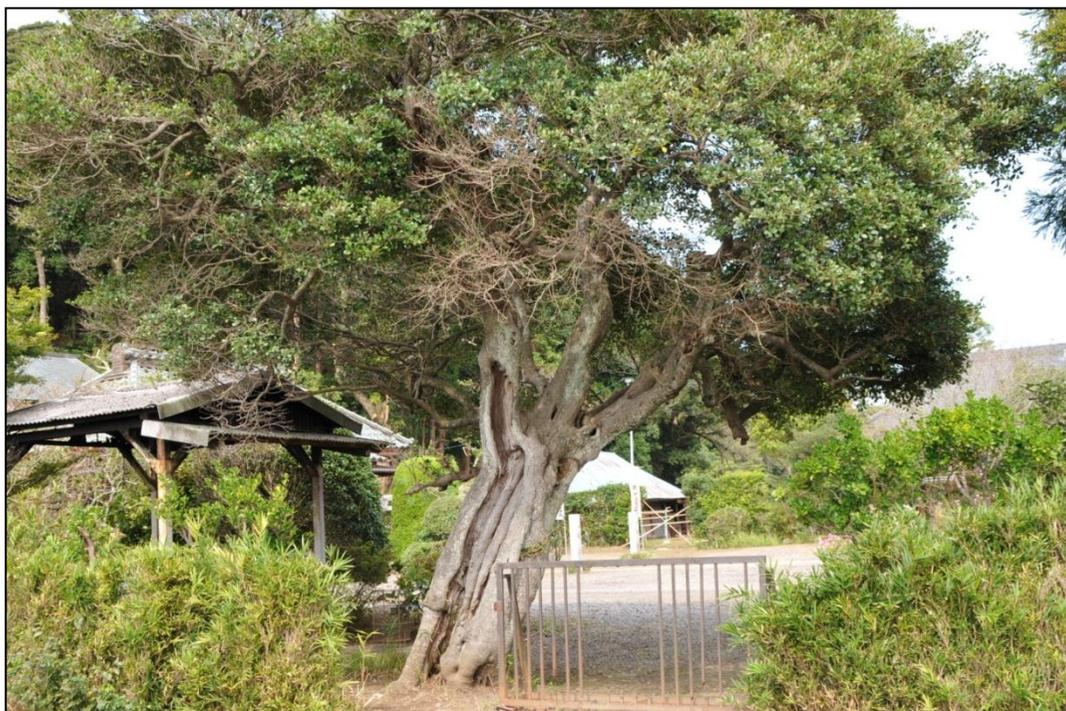
データ

探訪マップ【八原地区】②

樹高/ 10m 幹周り/ 220cm

推定樹齢/ 450年

場所/ 浅間神社(八代町)



■八代、浅間様の厄除け柵（ひいらぎ）■

魔除けには表鬼門（北東）にヒイラギが良いと、信じられ、節分の夜、ヒイラギの枝と大豆の枝に鰯の頭を門戸に飾ると邪鬼を払うといわれています。

ヒイラギはモクセイ科の常緑高木で葉には光沢があり、鋭い棘があります。秋には、米粒大の白い小花が咲き、良いにおいを放ちます。

材は目が緻密で将棋の駒、算盤（そろばん）の玉などに利用します。クリスマスの飾りに使うヒイラギはセイヨウヒイラギです。

このヒイラギの葉には棘はありませんが、これは古木のあかしともいわれています。



龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 4

【馴染・北竜台地区】



②4 ヤマザクラ

②7 ケヤキ

③0 ツバキ (紅唐子)

③3 ソメイヨシノ

②5 ムクノキ

②8 ケヤキ・スタジイ

③1 クスノキ

③4 アカガシ

②6 イチョウ

②9 ヤブツバキ

③2 スタジイ

③5 スギ

ヤマザクラ

【バラ科サクラ属】

データ

探訪マップ【馴染地区】⑭

樹高/ 15m 幹周り/ 200cm

推定樹齢/ 150年

場所/ 星宮神社(若柴町)



■星宮神社の山桜（やまざくら）■

星宮神社は、若柴町の北西にあり、入口に縁起の書かれた板札があります。縁起によりますと、神社の名前は北斗七星や北極星が由来とのことです。

平貞盛が星大明神の前を馬に乗って通った時、その馬が神社の前にあった石を見て動かなくなり、不思議に思った貞盛が辺りを見廻すと、祠があり、近づいてみると信仰する妙見様であることに気づき、参拝すると馬が動いたという「駒止の石」があります。

後に将門追討の祈願をし、成就したので社殿を寄進したとの伝えのある「星の宮」は、かつてヤマザクラの名所として4月13日の大祭には見事な花を楽しませてくれましたが、現在は数本を数えるほどです。

ヤマザクラの花が開花する4月中旬は、春の農作業の始まりで苗代づくりの目印にしたともいわれています。



ムクノキ

【アサ科ムクノキ属】

データ

探訪マップ【馴染地区】⑫

樹高/ 20m 幹周り/ 520cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 金龍寺(若柴町)



■名優の存在、金龍寺の棕（むく）一対■

市の北西部に位置する金龍寺。曹洞宗開祖の道元が中国から持ち帰った国指定の重要文化財「絹本着色十六羅漢像」（現在は県立歴史館に寄託）や「牛になった小坊主」、「わら干し観音」などの伝説がある古刹です。境内裏手の木立の中には南北朝時代の武将新田義貞の墓もあります。この寺の入口で迎えるのはムクノキの巨樹です。巨獣が大地を闊歩するような根張りの成木と枯死の気配が漂う老樹の対照的な二本です。

名優は演じることにより超越し、そこにいる。確かな輝きと絶妙なバランスの中で、重厚でしかも洒脱な在感を放つといわれます。

朽ちた樹容をさらけ出しながらも残る生命をたぎらせるこの巨樹こそ名優といえます。

ムクノキの葉は、昔は器物の表面研磨剤として使われていました。



イチョウ

【イチョウ科イチョウ属】

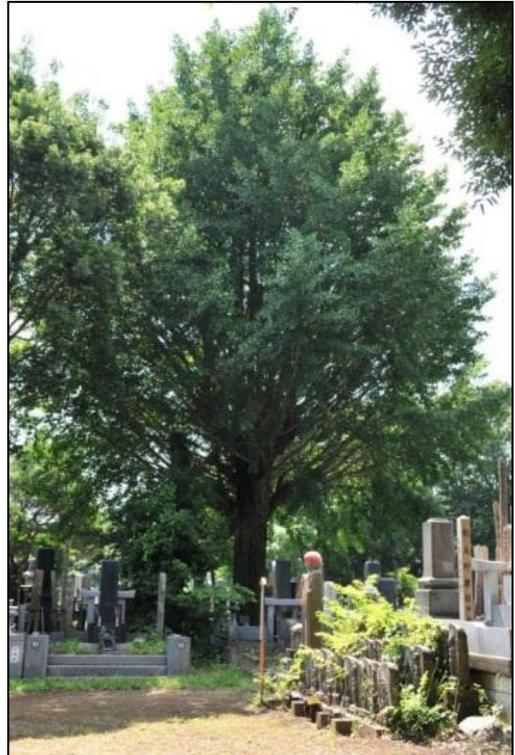
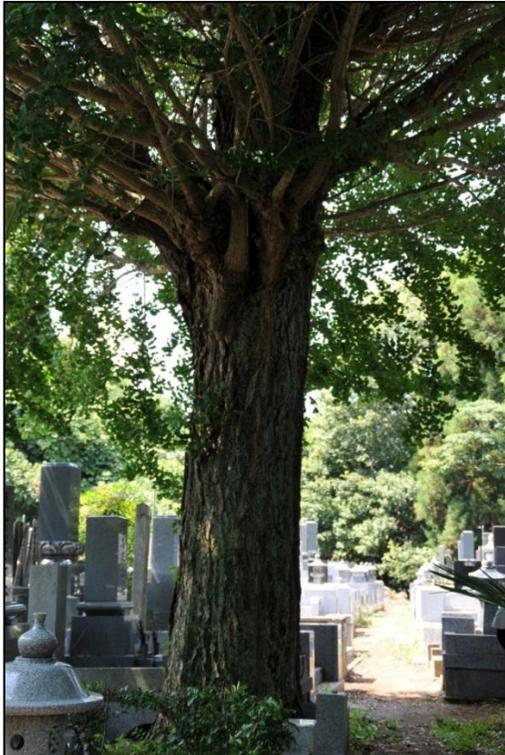
データ

探訪マップ【馴染地区】②⑥

樹高 / 20m 幹周り / 280cm

推定樹齢 / 300年

場所 / 金龍寺(若柴町)



■金龍寺の大銀杏（おおいちょう）■

金龍寺でその昔「立派な若武者が涙ながらに感慨深げに大イチョウを見上げていた」といいます。「その若武者は戦に敗れ、母と共に当地まで来ました。その折り、この大イチョウの実を食べ、飢えと疲れをいやし、元気を取り戻し、目的地まで辿り着いた」との言い伝えがあります。

イチョウは大気汚染に強く丈夫なので、街路樹としては一番よく目立ちます。秋には鮮やかな黄葉で、メタセコイヤやソテツと同じく生きた化石です。材は天井板や床板、碁盤、算盤玉などに役立っています。

ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

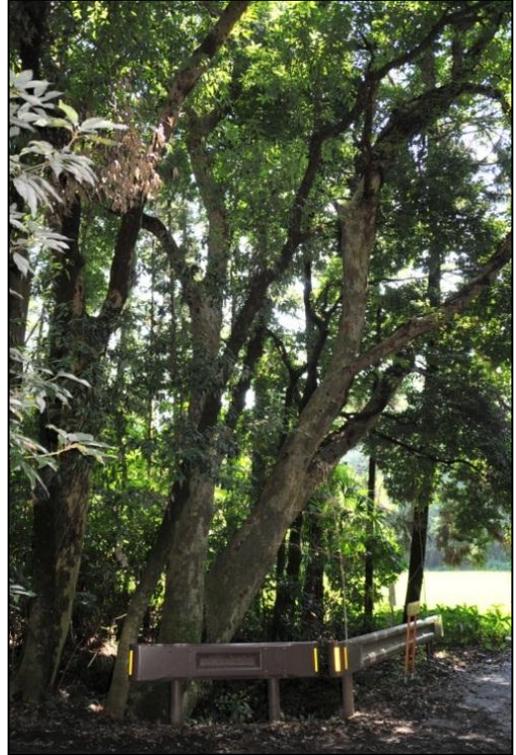
デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】⑦

樹高/ 20m 幹周り/ 330cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 御手洗の池(若柴町)



■御手洗（みたらし）の池の樺（けやき）■

旧水戸街道若柴宿から程近く、深閑とした鬮（くじ）神社の森を過ぎた雑木林の
中程に御手洗の池と霊木のケヤキがあります。地元の方のご尽力による「案内
板」が目印です。

北斗七星、北極星が由来とされる星宮神社。かつて参詣者がこの池で身を清め、
丘陵地を切り開き造られたゆるやかな坂道を上り参拝しました。神社のお使いであ
るウナギを誤って捕まえたときはこの池に放したという伝承もあり、今でもウナギ
を食べない住民も多いそうです。

江戸の千住から数えて八番目の宿場、若柴宿として栄えた時代、旅の無事を祈願
する人々が天空の北斗七星を仰ぎ見、参詣者がお社を目指す・・・そんないにしえ
の時代がしのべられます。現在の池は、底の部分が湿る程度のもので往時の面影はな
く、ケヤキの巨木のみがその名残を今に伝えています。



ケヤキ・スダジイ

【ニレ科ケヤキ属】【ブナ科シイ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】⑧

(ケヤキ) 樹高/ 30m 幹周り/ 400cm
推定樹齢/ 300年

(スダジイ) 樹高/ 30m 幹周り/ 460cm
推定樹齢/ 300年

場所/ くじ神社(若柴町)



【ケヤキ】

【スダジイ】

■ 鬮（くじ）神社、一対の大樹 ■

くじ神社の鳥居のようにケヤキとスダジイの巨木が一対になってそびえており、一方のケヤキには宿り木（ヤドリギ・右の写真）が多数寄生しているのが見られます。

また、一対の巨木の間をくぐるように階段があり、その奥に小さな社が見えます。そこを登っていくとしゃもじがたくさん下がった社が鬮神社です。

ヤドリギはケヤキなどの落葉広葉樹の枝に寄生する常緑の低木で、枝は二股に分かれながら枝先に厚い革質の葉を二枚ずつ対生します。

キリスト教国では「神聖な木」としてクリスマスにはなくてはならないものとされている地方もあります。



【宿り木】



ヤブツバキ

【ツバキ科ツバキ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】⑳

■ ヤブツバキ群
場所/ ねがらの道(若柴町)



■旧若柴宿、ねがら道（つばきの小径）の藪椿（やぶつばき）■

若柴の台地と台の下と呼ばれる低地をつなぐ斜面林があり、その台地下の「ねがら道」沿いにヤブツバキの群生地があります。

ヤブツバキの読み方の由来には、光沢がある意の古語、艶葉木（つやばき）、強い葉っぱの意味から強葉木、落ちた花が刀の鏢（つば）に似ている、朝鮮名の冬柏（つんぱく）の名などの諸説あります。周辺には稲作隆盛期の面影を残す種井（たねい）や大坂、延命寺坂、会所坂、足袋屋坂、鍛冶屋坂など、かつて旧水戸街道の要衝として栄えた若柴宿をほうつつさせる坂が点在しています。

現在、ヤブツバキの咲く森を守り、史跡群を遺産として残すために地元の方々による懸命な努力が払われています。

※ 種井

ねがら道に沿って現在、種井が3ヶ所残っています。かつては種井の湧水で種もみを浸したり、手足や農機具の洗い場として使われていました。



ツバキ(紅唐子)

【ツバキ科ツバキ属】

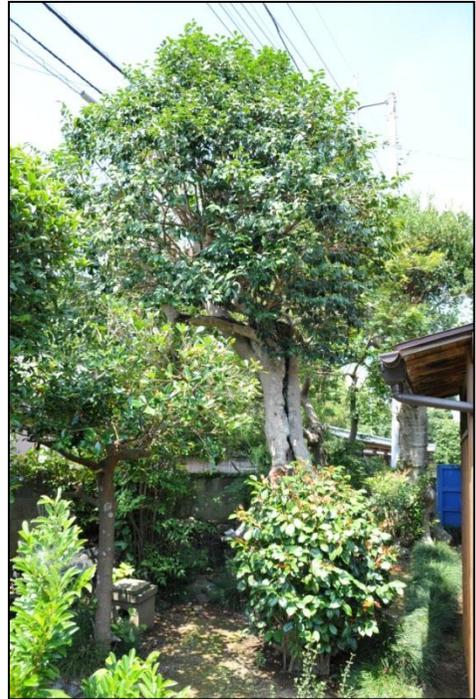
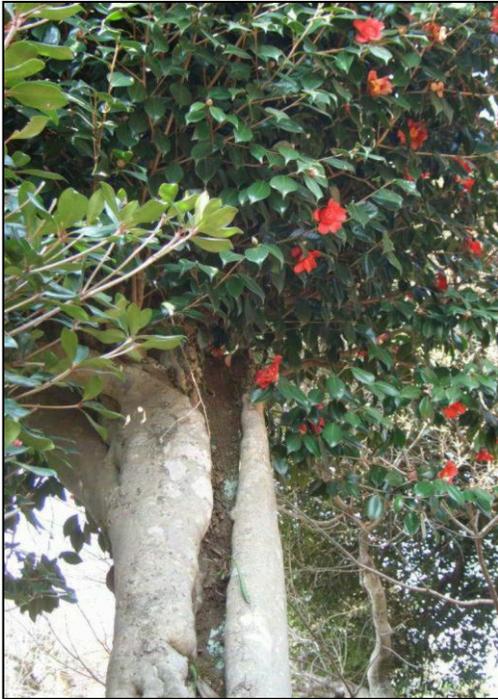
デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】⑩

樹高/ 7m 幹周り/ 110cm

推定樹齢/ 250年

場所/ 若柴町民家(若柴町)



■旧若柴宿の古椿、紅唐子（べにからこ）■

旧若柴宿（現若柴町）は、江戸時代には水戸街道八番目の宿場として、多くの旅人が往来し、江戸と当地を結ぶ要路でした。明治19年の大火で若柴宿の大半が焼失しましたが、現在も立派な門構えの旧家が多く見られ、当時の巨木・名木も多く、かつての名残が随所に伺えます。

この旧若柴宿の中程の民家に、椿の古い品種紅唐子が春の訪れを告げます。この紅唐子は樹齢が250年以上と推定されます。明治の大火の傷跡を残してはいますが、すこぶる元気で春には沢山の花を咲かせ、変り行く若柴宿を見守り続けています。

紅唐子は、1700年頃から関西地方を中心に栽培が始まり、その気品の良さはいまだに人気の的です。

また、このお宅の奥には貴婦人を想わせるようなみごとな樹形のケヤキもあります。



クスノキ

【クスノキ科クスノキ属】

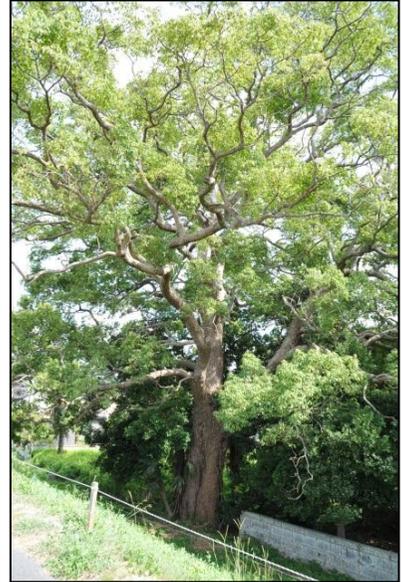
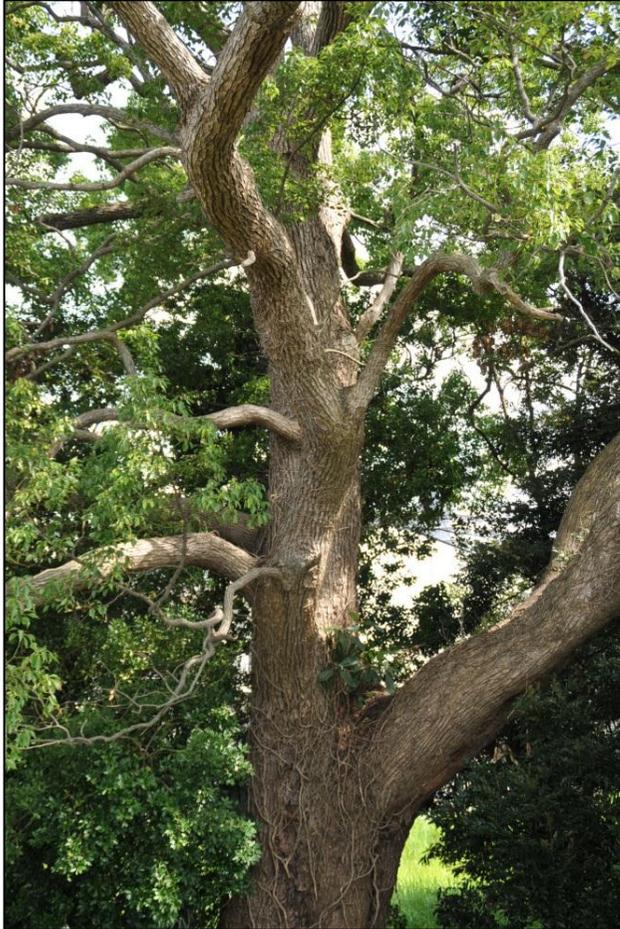
データ

探訪マップ【馴染地区】③

樹高/ 30m 幹周り/ 540cm

推定樹齢/ 350年

場所/ 小貝川沿い民地(馴染町)



■小貝川沿い、樟（くすのき）の横綱■

この大クスノキは「暴れ川」として知られる小貝川の堤防の下にあり、龍ヶ崎市内では横綱級の巨樹です。推定樹齢 350 年を生き抜き、宮和田の渡して水戸街道の旅人達が若柴宿に向かう目印にもなっていたのでしょう。

また、小貝川と鬼怒川の分流や新八間川の普請、牛久沼配水場の建設も確かに見つめていたのです。近くを通る常磐線鉄橋際には昭和 16 年の洪水による堤防決壊を刻む石碑「決壊口の跡」があります。ここから旧水戸街道に沿って若柴宿までには小さな祠や道標、神社、平国香の供養塔などいにしえの道が続きます。

昭和 28 年（1953 年）、近くの樋門工事中に古墳時代の遺物、全長 6m を超える原形をとどめた丸木舟が発見され、現在は龍ヶ崎市歴史民俗資料館で見ることができます。

スタジイ

【ブナ科シイ属】

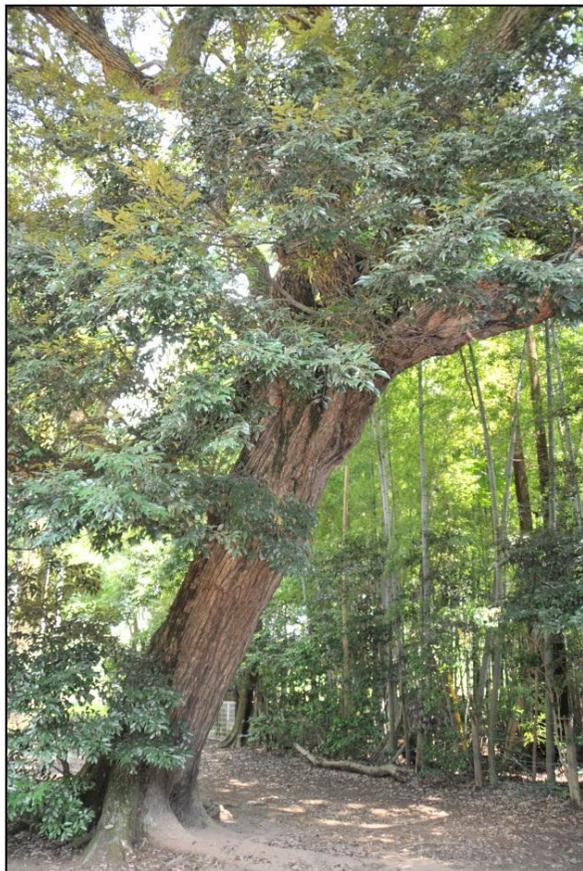
データ

探訪マップ【馴染地区】③

樹高/ 25m 幹周り/ 340cm

推定樹齢/ 250年

場所/ 女化神社(馴染町)



■きつね伝説の女化稲荷の森■

龍ヶ崎ニュータウンの北竜台地区を北東に3kmほど進むと、龍ヶ崎市の飛地馴染町に女化稲荷と呼ばれていた女化神社があります。建立年間(1190~1198年)に創立されたといわれ、農業神として信仰され、五穀豊穡・家内安全祈願に多くの信者が訪れます。

ここには日本昔話で有名な「狐の恩返し」伝説が残され、境内には狛犬の代わりに3匹の子狐を抱えた親子の狐像がたて祀られています。

また、境内は社を中心として鬱蒼とした森になっており、中でもイチョウ・エノキ・スタジイの3本の巨樹が目を引きまます。

スタジイは暖地、特に海岸付近に多く、鬱蒼とした巨木になります。香りの強い小花を雌雄別々に穂状花序につけ、また、椎茸栽培の原木として多く使われます。

ソメイヨシノ

【バラ科サクラ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】③

樹高 / 15m 幹周り / 230cm

推定樹齢 / 70年

場所 / 愛国学園大学付属龍ヶ崎高等学校
(若柴町)

■お花見の名所、愛国学園の染井吉野（そめいよしの）■

サクラは日本特有の観賞花木で、国民の気性を表すとともに最も愛されている名花と言えます。また、日本の国花でもあることから外国との親善に「サクラ」を贈った歴史もあります。「日本は這入口からサクラかな」と一茶の句にあるように、日本には数多くの種類があり、ソメイヨシノのほかにヤマザクラ、サトザクラ、シダレザクラ、ヒガンザクラ等が各地で観光名所としての賑わいを見せています。

サクラ類中最も広く普及しているソメイヨシノは、江戸末期から明治初期に、江戸の染井村（現在の東京都豊島区駒込）から出現したものとされています。ちなみに、昔は佐久良あるいは作楽と書き、桜とは書かなかったそうです。

愛国学園のサクラは市立旧馴染中学校時代のものが現在に引継がれ、手入れも行き届き立派に育っています。ほとんどがソメイヨシノで、サクラが立ち並ぶ姿は見事です。中には推定樹齢70年に及ぶものもあり、満開の時期には花の重みで枝先が地面に触れるほどの姿は一見の価値があります。



アカガシ

【ブナ科コナラ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【馴染地区】③④

樹高/ 15m 幹周り/ 350cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 鹿嶋神社(南中島町)



■竹がつかぬく、南中島町、鹿嶋神社の赤檜（あかがし）■

閑静な住宅街に囲まれた鹿嶋神社。鳥居をくぐるとすぐに巨木たちが視界に入ります。本殿奥に回ると竹林を背に、木漏れ日の中に荘厳な雰囲気たたえたアカガシが迎えます。

境内にある由緒沿革では、天正3年（1575年）9月、鹿嶋の大神を崇敬し、その分霊を奉齋創立。そして明治2年（1869年）に再建し、その壁画は「江戸の彫刻師後藤家一派の作といわれ、その彫刻は精緻華美で、壁画全体を一大パノラマ化する程の大胆な構図になっている。作品の中に後藤久米五郎作之彫工時三郎なるものがある。」と記されています。（後藤一派とは仏師運慶を祖とする彫り物師）

アカガシの樹形は大きく枝を広げています。樹皮はうろこ状にはがれ褐色や橙色の特徴的なまだら模様になります。材は建築材や木刀、道具の柄などの器具材、薪炭材に利用されています。

スギ

【スギ科スギ属】

データ

探訪マップ【馴染地区】③⑤

樹高/ 35m 幹周り/ 390cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 日枝神社(馴染町)



■馴染、日枝神社の大杉■

日枝神社は龍ヶ崎市民活動センター西隣の森の中に鎮座しています。

由緒は、延喜三年（903年）近江国志賀郡坂本村山王大権現の分霊を勧請し、馴染地区の鎮守として祀り、明治二年（1869年）山王権現の尊称を日枝神社と改称しました。

スギは常緑高木で日本特産の有用樹種。本州北端から屋久島まで分布し、幹は直立し、大きなものでは直径5m、高さ50mに達するものもあり、材はきめがまっすぐで柔らかく建築材の他、脂気に富み、樽、桶、下駄などに幅広く利用されています。

この深閑とした森には、樹高30mを超える大スギが30数本、その直線美を競うように姿を見せてくれます。また、境内の社を取り囲むように50数本のスダシイの巨木が大きな森をつくり、その中にモミやシラカシなどの貴重な大木が生い茂り神社の尊厳さが感じられます。

龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 5

【川原代地区】



③⑥ ヒヨクヒバ・イヌマキ

③⑦ ヒバ・ヤマモミジ

③⑧ イチョウ

ヒヨクヒバ・イヌマキ

【ヒノキ科ヒノキ属】 【マキ科マキ属】

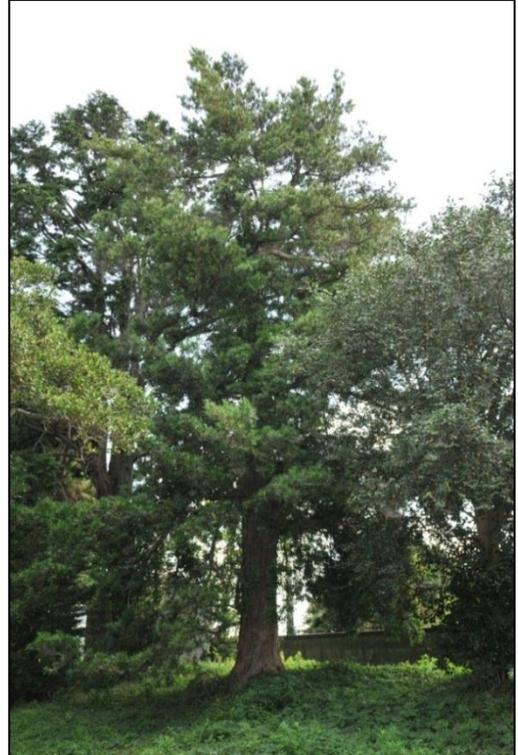
データ

探訪マップ【川原代地区】③⑥

(ヒヨクヒバ) 樹高/10m 幹周り/ 270cm
 推定樹齢/ 100年
 (イヌマキ) 樹高/20m 幹周り/ 240cm
 推定樹齢/ 100年
 場所/天理教相馬分教会(道仙田)



【ヒヨクヒバ】



【イヌマキ】

■道仙田、分教会の木々たち■

旧水戸街道の馴染道標から江戸への布川道が小貝川の土手にぶつかる辺りに砂波（すなっば）という集落があります。その集落のはずれに天正年間、450年ほど前に鹿嶋の分霊として建てられた天理教相馬分教会の樹木の濃い茂みがあります。

現在、道仙田には、へら鮒釣りのメッカとして有名な旧小貝川がありますが、明治中期に氾濫河川の小貝川の短絡工事のできたものです。

ヒヨクヒバ

常緑高木でサワラの一変種の比翼檜葉（ヒヨクヒバ）。枝は細く長く垂れ下がっており、庭木や生垣用に用いられます。枝は細く長く垂れ下がっており、別名イトヒバともいいます。

イヌマキ

常緑針葉高木で関東以西から沖縄まで分布しており、北限に位置するこのイヌマキは風格のある樹形をしています。分教会奥左側の道路際、木々の茂った小高い法面にすっきりと立っている姿は、りりしく感じます。



ヒバ・ヤマモミジ

【ヒノキ科アスナロ属】 【ムクロジ科カエデ属】

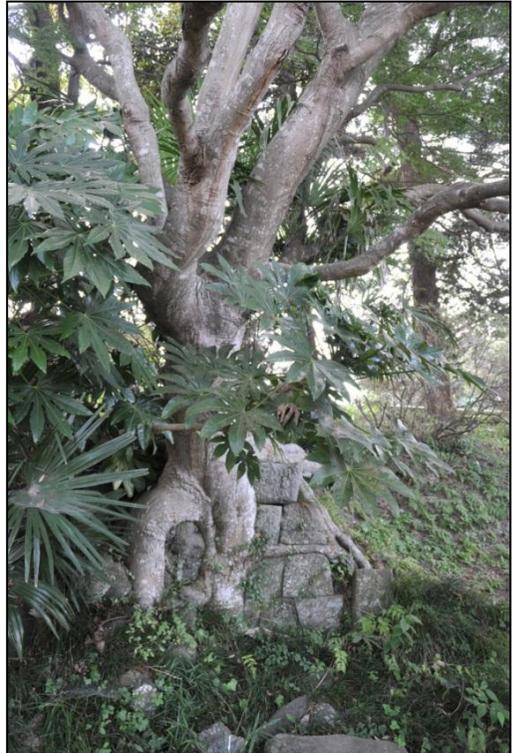
データ

探訪マップ【川原代地区】③7

(ヒバ) 樹高/20m 幹周り/
250cm 推定樹齢/100年
(ヤマモミジ) 樹高/13m 幹周り/150cm
推定樹齢/100年
場所/ 天理教相馬分教会(道仙田)



【ヒバ】



【ヤマモミジ】

■道仙田、分教会の木々たち■

ヒバ

ヒバは翌檜（あすなろ）の別称で「明日はヒノキになろう」という意味といわれています。ヒノキ科の常緑高木で材としては建築材料として珍重され、また、船材、土木材などに使用されています。

ヤマモミジ

落葉高木。日本固有種といわれ、雌雄同株で春には一つの花序に雄花と両性花をつけ翼果を結びます。

分教会中庭左側の小高くなっているところにヤマモミジが大きく枝を広げており、長い年月を経るうちにかつての石積壁に根が覆いかぶさっている珍しい光景が見られます。



イチヨウ

【イチヨウ科イチヨウ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【川原代地区】⑳

樹高/ 13m 幹周り/ 300cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 八幡神社(川原代町)



■川原代、八幡神社の銀杏（いちょう）■

水戸街道（国道6号線）の小通幸谷交差点から、県道竜ヶ崎潮来線・ほたる通り（5号線）をしばらく進むと、川原代小学校があり、ここを右折すると小学校の裏手に八幡神社があります。

八幡神社は、「同じ源氏と申せども、八幡太郎はおそろしや・・・」と都で歌われた義家が、後三年の役の帰途創建したとされています。

「戦神」とされる八幡さまを頭につけられる義家ですが、前九年の役の衣川の総攻撃の時、「衣の館（たて）はほころびにけり」と下の句を読み、敗走した安部貞任が「年を経し糸の乱れのくるしさに」と上の句をつけたところその教養に感じて矢をおさめたという話からも義家の人柄がうかがえます。

八幡神社裏にあるイチヨウは、岩手県長泉寺の幹周り15mの巨樹には及びませんが、幹の太さに龍ヶ崎市の往時を偲ぶのも一興でしょう。

また、このイチヨウには乳（ちち）と呼ばれる気根が幹や枝に数多く垂れています。



龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 6

【北文間地区】



③9 スダジイ

④0 ケヤキ

④1 クスノキ・オオムラサキ

④2 カキ

スタジイ

【ブナ科シイ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【北文間地区】③

樹高/ 5m 幹周り/ 440cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 須藤堀町民家(須藤堀町)



■須藤堀のすだ椎(しい)■

スタジイは、民家の庭木として、よく手入れされた樹形で、大変趣がありますが、残念ながら台風により頭頂部が折れて失われています。

民家の入口に享保13年(1728年)建立の可愛らしい弁天様がありました。「大昔3姉妹の次女が突然亡くなり、命日には現在も縁者が集まってお祭りをしている」というほっこりとするお話を伺うことができました。

近くを通る土浦竜ヶ崎線・だんご塚通り(4号線)を千葉方向にしばらく進むと、北方交差点付近に直径約55m、高さ14mのだんご塚古墳があります。塚上の吾妻神社に祀られているのは日本武尊の後・弟橘姫命(おとたちばなひめのみこと)。塚には副葬品が埋められているという言い伝えがあります。



ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

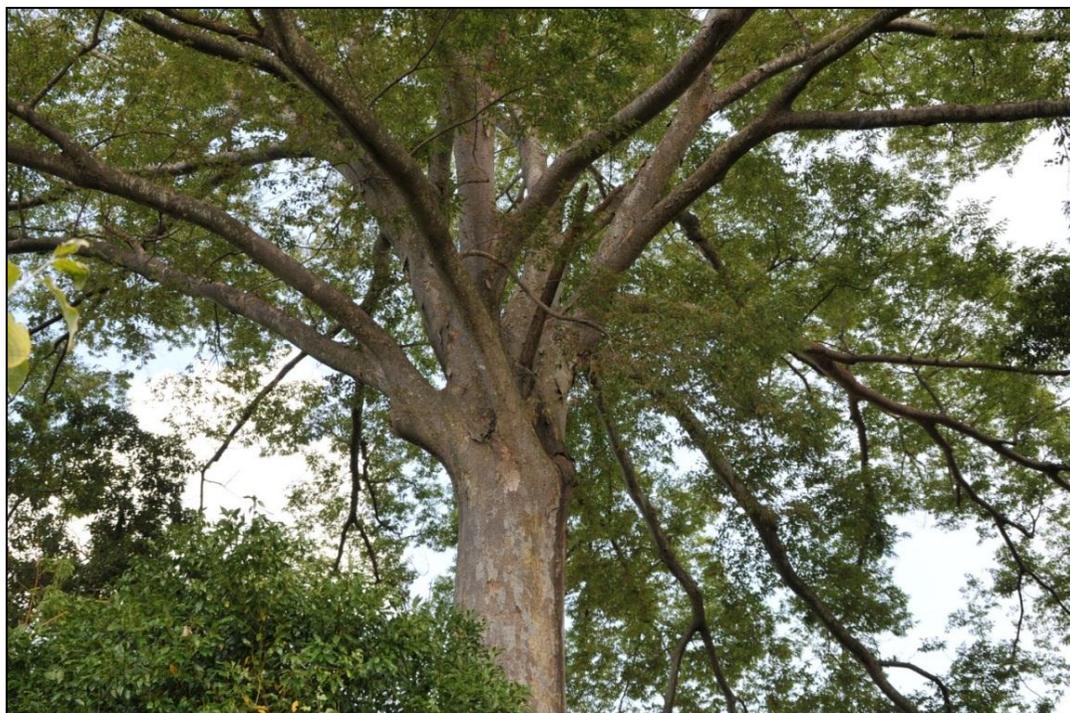
データ

探訪マップ【北文間地区】④

樹高/ 20m 幹周り/ 390cm

推定樹齢/ 100年

場所/ 長沖町民家(長沖町)

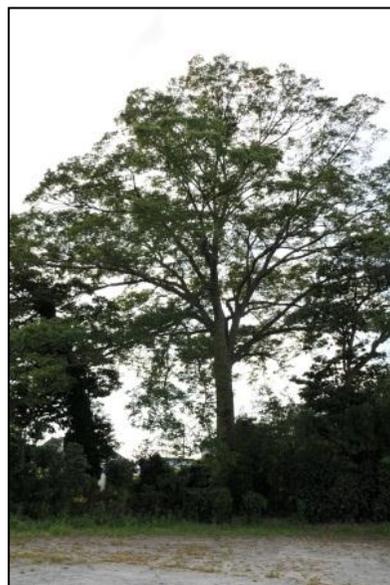


■長沖のノツボ樺（けやき）■

主要地方道千葉竜ヶ崎線・だんご塚通り（4号線）から北文間小学校方面を眺めると、広がる水田の先にケヤキの巨木を見ることができます。

北文間小学校付近のツバキの垣根に囲まれた邸宅内に樹高20mのケヤキが天に向かって大きく手を広げているようで、一見の価値があります。

この邸宅のツバキの垣根も開花時期はとも見事です。



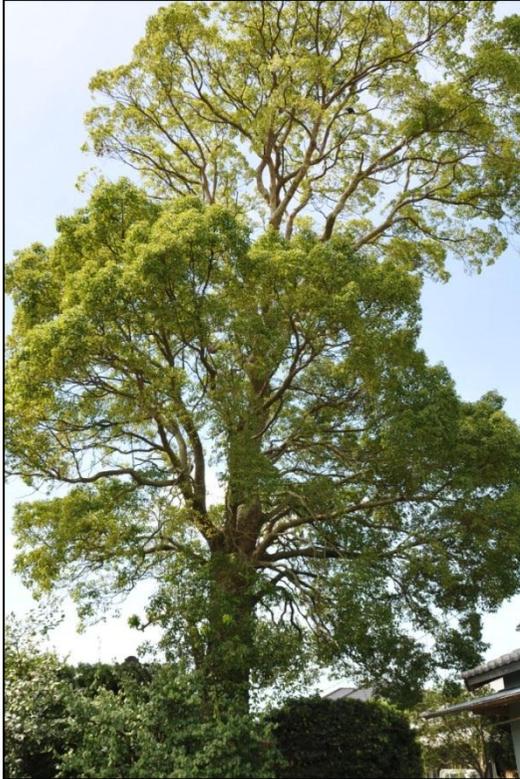
クスノキ・オオムラサキ

【クスノキ科クスノキ属】【ツツジ科ツツジ属】

データ

探訪マップ【北文間地区】④

(クスノキ) 樹高/ 25m 幹周り/ 370cm
 推定樹齢/ 150年
 (オオムラサキ) 樹高/ 4m 株立ち 46本
 推定樹齢/ 120年
 場所/ 須藤掘町民家(須藤掘町)



【クスノキ】



【オオムラサキ】



【オオムラサキ】

■すっくと伸びた須藤掘の大樟（おおくす）■

クスノキは樹齢も長く、日本で巨樹となる木の一つです。幹周り 24.2m の蒲生の大クス（鹿児島県蒲生町）は有名です。

このお宅のクスノキも樹高 25m と高く、付近には水田が広がっていますので、遠くからも見ることができます。

また、よく手入れされた庭には、すばらしい株立ちのオオムラサキが目を引きまします。オオムラサキは半常緑性で春葉、夏葉の二型があり、紅葉（黄葉）した葉は落葉しますが緑色の葉は冬を越します。

ゴールドエンウィーク頃の開花時は大変見応えがあります。



カキ

【カキノキ科カキノキ属】

デ
ー
タ

探訪マップ【北文間地区】④

樹高/ 15m 幹周り/ 160cm

推定樹齢/ 150年

場所/ 高須町民家(高須町)



【水塚（水屋）】



■高須の古柿（ふるがき）■

カキは古くから日本固有の果樹として各家庭でも栽培され、晩秋から初冬にかけてたいへん風情があります。カキはカロチンを含み利尿効果があって二日酔いにも効くそうです。また、「木守柿」といって、赤い実を一つだけ木に残しておく風習があります。

龍ヶ崎から高須橋を渡って取手市（藤代町）に抜ける途中、高須集落の屋敷にしっかりと根を張り、150年以上の風雪に耐えている古柿の雄々しい姿が見られます。

高須町は、小貝川と旧小貝川（三日月湖）に囲まれた地域で、かつて何回もの洪水の被害にあい、その為屋敷内には盛土をされた場所に現在も水塚（水屋）が残されています。

※ 水塚とは洪水の際に避難する水防施設で、母屋より数十センチ以上高く盛土をし、その上に倉などの建物を建てたものです。

■ 本誌で紹介できなかった樹木以外にもすばらしい樹木がありますので紹介いたします。

場所	地区	樹木	備考
竜ヶ崎第一高等学校	龍ヶ崎地区・平畑	クスノキ	樹高 40m・幹周り 415cm・推定樹齢 150 年 3 本の大木
竜ヶ崎第二高等学校	龍ヶ崎地区・古城	クスノキ	樹高 15m・幹周り 390cm・推定樹齢 100 年
五十瀬神社	大宮地区・関	カヤ	樹高 15m・幹周り 250cm・推定樹齢 200 年
星宮神社	駒柴地区・若柴町	シラカシ	樹高 30m・幹周り 300cm・推定樹齢 300 年
金龍寺	駒柴地区・若柴町	コブシ	樹高 20m・幹周り 200cm・推定樹齢 100 年
若柴町民家	駒柴地区・若柴町	ケヤキ	樹高 30m・幹周り 370cm・推定樹齢 200 年
若柴町民地	駒柴地区・若柴町	シホウチク	四角形の稈・高さ 2~7m
女化神社	駒柴地区・駒馬町	イチョウ	樹高 15m・幹周り 340cm・推定樹齢 300 年
女化神社	駒柴地区・駒馬町	エノキ	樹高 20m・幹周り 390cm・推定樹齢 100 年
女化神社	駒柴地区・駒馬町	ヒヨクヒバ	樹高 15m・幹周り 210cm・推定樹齢 130 年

- 参考文献
- ・原色樹木大図鑑 北隆館 林弥栄 他 著
 - ・牧野新日本植物図鑑 北隆館 牧野富太郎 著
 - ・日本の野生動植物 平凡社 佐竹義輔 他 著



【川原代町の一針松】

龍ヶ崎市では昭和 49 年に松が市の木として制定されました。環境の変化や松くい虫などの影響で松の巨樹が連なる景色は見ることはできません。

歴史民俗資料館の資料によると、川原代町にあった一針松は、新年の農事はじめに豊作を祈り、田に松の小枝を挿したものが成長したといわれています。見事な枝張りは、最大で 13m ありました。昭和 53 年に市の天然記念物に指定されましたが、松くい虫の被害により昭和 59 年に姿を消しています。

この写真は、現在の川原代町の一針松です。先代の一針松のような名木に育つことを願っています。

お宝の木発掘委員会

委員長 土屋 義郎

委員 石川 正枝

小峰 寿

竹原 典子

安井 千鶴子

吉野 功一

久保 幸子

高 正代

野口 宣二

山西 弘

監修 (独) 国立科学博物館筑波実験植物園学習指導員 渡邊 剛男

- 樹高・樹齡等も目測と推定ですので誤差についてはご容赦の程よろしく
お願いいたします。

「お宝の木」は市内にまだまだ存在すると思いますので、ご存じの方は
市役所環境対策課までお知らせください。

龍ヶ崎市役所環境対策課 ☎0297-64-1111



【市の花 キキョウ】

昭和49年7月15日制定



【市の木 マツ】

昭和49年7月15日制定



【市の鳥 ハクチョウ】

昭和49年7月15日制定





金龍寺（若柴町）



椿（郷のむすめ）

龍ヶ崎のお宝の木 巨樹・古木

平成 25 年 3 月

編 集 龍ヶ崎市・お宝の木発掘委員会

発 行 龍ヶ崎市都市環境部 環境対策課